

【算数・小1・「ひきざん」】①

育成を目指す資質・能力

<本時のねらい>

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）の理解を深める。

ICT活用のポイント

- 問題解決した過程をブロック操作、図、式などを用いて表現するための工夫。
- ブロック操作した動画、図や式の写真を共有することで、互いの考えを解釈し、伝え合うための工夫。

【つかむ】

前時の学習を振り返り、 $14 - 8$ の計算の仕方を考える。

14-8のやりかたを、ミニ先生におしえよう。

【追究する】

ブロック、図、式の中から説明するための手段を選択して取り組む。

共有した、ブロック操作の動画や図の写真を見て、友達がどのように計算したのか考え、伝え合う。

【まとめる】

学んだ計算の仕方を生かして、適用問題に取り組む。

事例の概要

- 「計算の仕方を説明できずに困っているミニ先生に、説明して教えてあげる」という場面設定の中で、 $14 - 8$ について、計算の仕方について考える。
- 名人タイムでは、「ブロックめいじん」、「ずめいじん」、「しきめいじん」の3つの説明する手段から選んで取り組む。
- 弟子タイムでは、それぞれの名人（友達）の考えを共有し、名人がどのように考えたのか解釈し、説明し合う。

【事例におけるICT活用の場面①】

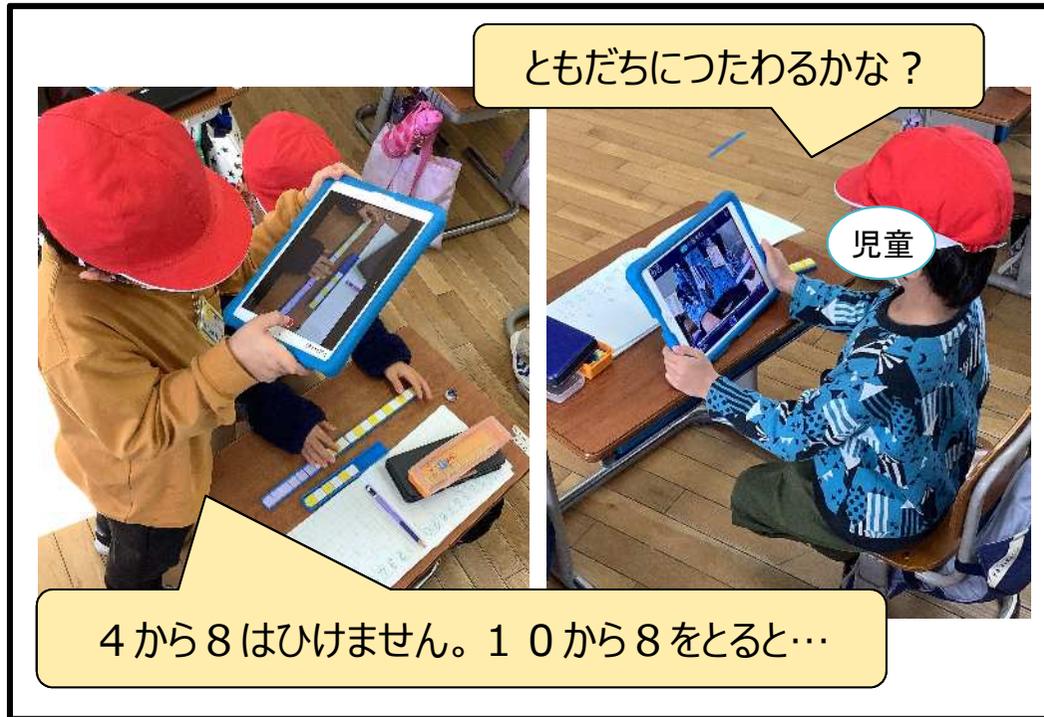
- 「ブロックめいじん」を選んだ児童は、説明しながらブロック操作をしている様子を、友達にICT端末を用いて動画撮影してもらおう。また、動画を見て、自分の説明について見返し、思考の過程を振り返る。
- 「しきめいじん」や「ずめいじん」を選んだ児童は、ノートに書いた式や図を自分でICT端末を用いて写真撮影する。

【事例におけるICT活用の場面②】

- 撮影した動画や写真を学習支援ソフトで提出させて共有し、それぞれの説明について、どのように考えたのか伝え合う。

【算数・小1・「ひきざん」】②

【事例におけるICT活用の場面①】



ともだちにつたわるかな？

児童

4から8はひけません。10から8をとると…

名人タイム

問題解決した過程を表現する

児童は相手意識をもって、ブロックを操作しながら説明したり、図や式に計算の仕方を表現したりする姿が見られた。また、1つの方法だけでなく、他の表現方法に挑戦していた。

※「ブロックめいじん」の児童には体育帽子を被らせることで、「ずめいじん」「しきめいじん」も含め、児童がどの活動をしているか把握できるようにし、支援しやすくする。

【活用したソフトや機能】写真・動画撮影

【事例におけるICT活用の場面②】

弟子タイム

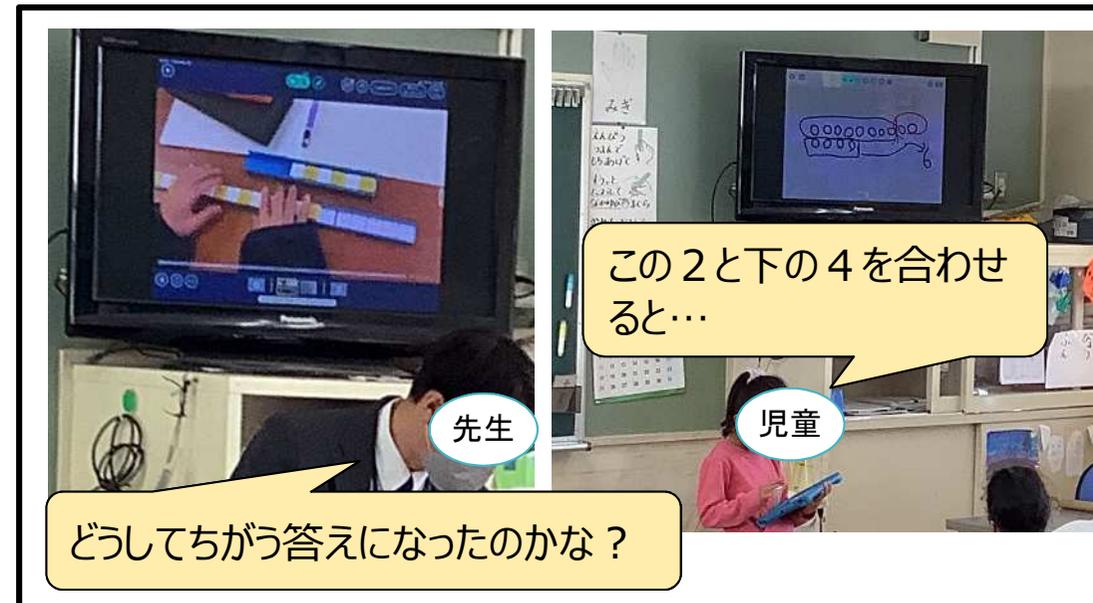
互いの考えを解釈し、伝え合う

ブロック操作の動画を共有して、どうしてその操作をしているかを考え、伝え合っていた。また、誤った答えになってしまった動画を見て、誤った操作についてペアで説明し合う姿が見られた。

共有した図や式の写真を使って、別の児童がその友達の考えを解釈して説明していた。聞いている児童はうなずいたり「そうそう」と声を出しながら、考えを深めたり広げたりすることができた。

※児童がポインター機能を使って図を指し示しながら配信することで、どのまとまりについて説明しているのかわかりやすくする。

【活用したソフトや機能】学習支援ソフト（ファイル共有）



先生

児童

この2と下の4を合わせると…

どうしてちがう答えになったのかな？